

## 附帯意見(各委員から意見)

各委員から下記の意見があったため、今後の参考とされたい。

### [天守閣の建設について]

・今後、清水御門や二の丸休憩舎を建設するのであれば、まず「天守閣」を建設して欲しい。史実に基づき復元することにこだわらず、アミューズメント施設として「天守閣」を建設し、それを柱として、様々なイベントや周辺施設も含めた歴史を感じられるまちにして欲しい。公費で建設することは反対だが、民間資金を使い建設すれば良い。

・将来のことを考え、もし「天守閣」を作るのであれば、ある程度史実に基づいたものが望ましい。

・「天守閣」の建設には、相当な財政支出が必要である。市民が喜ぶことは無形のサービスであるが、市の健全経営を保つことができない。史実に基づかず、民間が建設するアミューズメント施設ならば理解はしやすい。設計図などの根拠がないため、史実に再現することに、こだわり過ぎる点は検討する必要がある。

・「天守閣」については反対である。歴史的建造物があっても静岡に来るとは思えない。「天守閣」を建設すれば人が来るという安易な時代は終わった。若者は、「天守閣」を建設するより、子どもや子育てしやすい憩いの場を望むのではないか。

### [公園の整備・活用について]

・歴史的建造物として、「東御門・巽櫓」、「桝櫓」などを復元し、現在も発掘調査をしているが、今後の活用方法を再度、真剣に考えるべきである。

・首都圏では駿府城公園の認知度はかなり低く、他都市の有名な城址公園と比較しても認知度は低いため、歴史という側面では負けてしまう。歴史文化のまちの発信は重要であるが、あえて駿府城公園から発信することも疑問である。5年、10年、30年後に市民が価値を見出せる公園にする必要がある。

・他都市の事例や近隣市では公園内にカフェを出店しており、とても綺麗で人を引きつける。若者が、綺麗な景色を見てカフェで過ごすことは、非常に素晴らしいゆとりの時間、癒しの時間となるので、歴史の中に近代的なカフェなどを採り入れるなど、飲食できる施設があれば良い。

- ・公園でイベントがあれば人が集まる。市民に還元できる公園として、朝市やフリーマーケットなど、市民が楽しめるイベントが年中開催できる公園が望ましい。
- ・市民の憩いの場には、休憩場所や飲食、子供が遊ぶスペースが必要である。また、ウォーキングも流行しており、電車で来て楽しめるまちも考えられる。健康と歴史、買い物や飲食も楽しめるまちを、現計画に加えれば面白い公園ができる。広場だけでなく、大人から子どもまで楽しめる要素を採り入れた方が良い。
- ・紅葉山庭園は、多額の経費を要した施設であるが、パンフレットでも紹介されていないため、もっとPRした方が良い。
- ・駿府城公園の施設については、魅力を感じないものであった。また、坤櫓の今昔スコープにかなり設備投資をしていると思うが、費用対効果の面で疑問である。
- ・今後、駿府城公園に多額の経費を投入する必要性を再検討するべきである。また、これまでの整備の効果を、どの程度検証しているか疑問である。社会経済状況や価値観がかなり変化しているため、現計画を継続するか再評価・再検討が必要である。
- ・大河ドラマゆかりの地で、駿府城公園が紹介されたが、公園内の遊具が映り残念であった。歴史を感じられる、木の遊具や城をイメージしたデザインにして欲しい。青空カフェも、キッチンカーを城のようなデザインにし、働く人も歴史を感じる格好で給仕するなど、駿府城跡地の公園である雰囲気も発信して欲しい。
- ・「紅葉山庭園」や「東御門・巽櫓」は、スペースに限りがあり、現状ではユニークベニューとしての活用は難しいと考える。ただし、「坤櫓」は階段が急であるが2階、3階を見学できれば良いと思うが、料金を払い見学したい施設ではない。
- ・現状の施設を活かし、人を集めるなら他都市で例のないものが良い。発掘調査の現場が見られることは非常に面白く、多くの方が関心を持っているが、見せ方がよくない。発掘調査が数年続くので上手く利用し、浅間神社や臨濟寺を含めた歴史探訪ができれば、市内外から参加するのではないか。

#### **[駿府城公園周辺エリアについて]**

- ・他都市の城址公園には休憩所、食事処があり、周辺に駐車場も数多くあるため、アクセスが良い。また、周辺にはホールや近代的なビジネスパークなども集積しているため、駿府城公園も点でなく面で考える必要がある。静岡駅から駿府城公園までの導線に、様々な施設があれば、観光客が訪れると考えられる。

・公園周辺の体育館を「駿府城アリーナ」、文化会館を「駿府城ホール」という名称にすることも考えられる。周辺の臨濟寺や浅間神社、浅間通りなどを含めて歴史を感じられるまちにして欲しい。

## [コンセプトについて]

・「この公園があるから、このまちに住みたい」というキャッチコピーを考えた。防災機能、歴史的価値もある世界に誇れる公園、どこよりもかっこ良いカフェがある公園など、Uターン・リターンしたい、新幹線通勤をしても住みたいと思える公園とは何かをディスカッションし、コンセプトを作れば楽しいのではないか。それを民間業者などのプロフェッショナルにまとめてもらえば良い。

・歴史という言葉を広大解釈し、賑わいと繋げる観点から、未来の歴史を作るという方向性にすれば良い。過去の歴史ばかりでなく、賑わいづくりのために歴史を利用するという観点を踏まえて欲しい。

・駿府城公園は、やはり若者が未来を楽しむ場所、例えば国家レベルでIoTの実験場にするのも面白い。現代に即した面白い仕組みを取り入れるコンセプトが設定できれば良い。人口減少対策では、付加価値を高め、生産性を高めることが手段であるため、IoTやICTの活用というコンセプトがあっても良い。

・都市間競争で勝てる都市はやはり「住みやすさ」であり、静岡市は上位にランキングしている。山と海、ある程度の都市機能もあるため、客観的な結果となった。積極的に日本一住みやすいことを発信し、その一つのコンテンツとして駿府城公園を位置付けても良いのではないか。

・駿府城の歴史に対し全国の人が感慨を抱くか疑問である。市民の憩いの場、静岡市の住みやすさの発信が必要である。静岡の人はイベントがあると人が集まるので、一般的な感覚ではなく、自分達のまちの属性を研究した上で考える方が良い。

・海外の人気スポットは、観光地として美化された街でなく、生活者の暮らしそのものを観光客が楽しむことであるが、生活感を強調しすぎると観光客が訪れなくなる。市民に対し、公園内行為について一定の制約も検討する必要がある。

・人口減少の原因をきちんと把握し、データ分析に基づいた対応が必要である。働く場所やまちに魅力がなく、大学卒業後に静岡市に戻らない事実があれば、それらの期待に応えられる方向性を示すべきである。素晴らしい公園があるから、訪れたいと思わせる工夫が必要である。

### 【まちづくりの視点について】

- ・静岡市全体のまちづくりのプロデューサーがいないと常々感じている。ある程度専門的な知識を持ち、市民のコンセプトを汲み上げ、都市間競争を勝ち抜き、世界に魅力ある都市にするプロデューサーが欲しい。
- ・ニューヨークのセントラルパーク周辺の住人が朝散歩する際のファッションはハイセンスであり、それを見られることが魅力である。静岡市でも、例えば駿府城公園に出かける時やウォーキングをする時におしゃれをするような街になれば費用をかけずに、すぐ有名になれる。簡単にできることなので、検討して欲しい。
- ・静岡は東京と比較し、着飾る機会が非常に少なく、若者にとって魅力がない理由の一つである。また、若者が週末に何もすることがないと良く聞く。なぜ、若者が静岡に戻らないか考える必要がある。仕事だけでなく、余暇の過ごし方の選択肢に圧倒的な違いがある。週末に音楽を楽しめる、雰囲気良く憩いの場となる公園などを考えることが大事である。